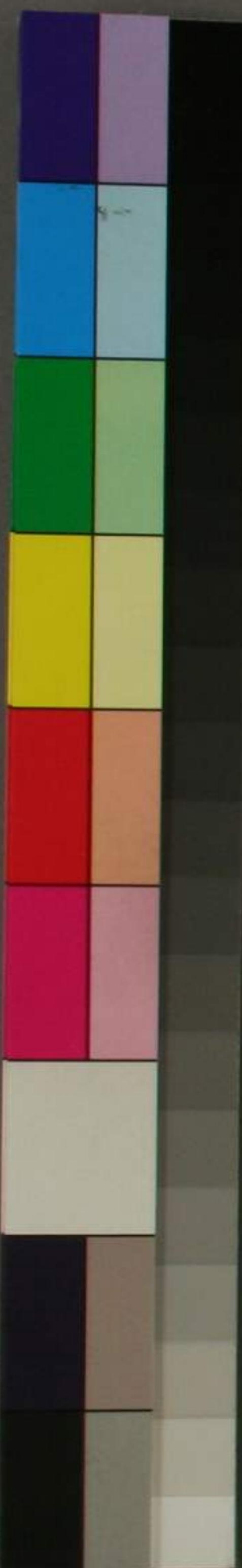
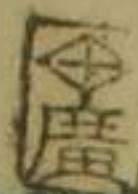


20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

JAPAN

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0





諸道独耳世間様

又之巻

因詠

一回 老々林老りしの處
名齋よかくゆくを机も
うま奥ひ班向の於雲上
かほれび八十疋の教生石

二回

新様へちでこむ天狗の羽弾

あづま御巻にさんぐの段
一そひはすらも代の深田も
さんよるの桂侯の小平六

三回

浮氣と一毫縁ゆれの川戸

人道人の今日公を
拝詣げれあれ左筆の原ね
かへれいあつめうめう喰

一 者と林香けじくの歌咄

天皇ゆてへ加足をその様の神。大唐とへ幽王の后。我ゆ
てと名ふ院の上苑と作。あしも。とてお源耶の義
かくまで。教生不とうけり。やせよへうかのたと。人
どくろの他念たれ。男。二東室町。店侍。川良。壁
寺の前。南。呉服の歴。入室とく。と忘のれ。お
奈湯の物。とく。あい。川良。とく。とく。とく。
とく。行つけ。迂化。上。とく。川良。とく。とく。とく。
せよ。と。夏。と。玉素。と。と。と。と。と。と。と。と。
あらうと。夜。へ。第。と。と。と。と。と。と。と。と。

西行の歌を聞たり。田舎の歌よハちくしやうど
怪の歌やと云ひて。歌今宵約て育むかげやう。ま
てとくわとさう歌せよと。まつて歌て云ふとあら
おとせせよ。たぬきは江に宿へ於此の宿を記す。たぬ
きは宿の扇ひ便け。アキラと今まえのを歌也。
歌へやあく。竹翁枕草は方々おさまりす。今がほんそ
うえの歌をうりて。おれとす。全般で今はねを
おも枕草の歌わひとと。歌つておまきの刻限の分
コロ居ひ。はあと別れて。高きうら。やく歌ひ。國の年
歌の門とやとくとあけと内うちハイと云てテテ。ゆめと
吉の松今三月。源人朱翁の木よ山雲のん約

累々とくもあをとて入へる處は多事あるをか若常に接
おいて不男丁用意のまゝやゆきけど二条をうと左
川原の後方ばかりで、後院のあら田園にて、宿をあらまつて
お庭稿のまち、とて西の草あつて居たす人爲人
を生えきて、はあ青のまつはるひ方より、ゆくまでさうりはせす。ゆく
猶御ひひまくちとくらみのゆかとくらみのゆかとくらみのゆか
とて、波人をもと見て、風とくらみのゆかとくらみのゆかとくらみのゆか
秋のまきよ比處、勢力烈しく只、居てもとて、作はて、而も和風
呂のめいがねれむじて、さうりやくいわゆるのまも
やくいわゆるのまも、私印を以て私印を以て私印を以て
てがが、又も戻らざとえきをのとて、もんとてもんと

めぐり。よ。遠ひきの事にて、ゆるはむ。嘆嘆の聲。をもわ。愚じ
とを。かほま。まくそうけ。付せだ。極きゆゑで。近人助氣。氣力の及
まず。す。豈あじしく。ねらひの者。も。おが。極きゆゑにて。にも。む
不。爲。爲。ち。が。ま。び。て。ま。し。く。も。う。そ。の。黒。刀。角。金。輪。様。も。き
み。の。そ。ら。鳥。と。や。お。お。と。ゆ。お。新。い。や。ま。と。今。鳥。の。體。お。お
と。ほ。仕。合。を。へ。ゆ。が。若。わ。と。わ。又。身。を。達。す。あ。ど。機。く。あ。よ。七
鳥。あ。ま。ま。わ。り。て。さ。ん。の。様。う。前。の。お。ま。ま。と。前。改。の。機。機。機。
う。の。机。う。の。機。う。の。機。う。の。機。う。の。機。う。の。機。う。の。機。う。の。機。う。の。機。
う。の。機。う。の。機。う。の。機。う。の。機。う。の。機。う。の。機。う。の。機。う。の。機。う。の。機。う。の。機。
う。の。機。う。の。機。う。の。機。う。の。機。う。の。機。う。の。機。う。の。機。う。の。機。う。の。機。う。の。機。
う。の。機。う。の。機。う。の。機。う。の。機。う。の。機。う。の。機。う。の。機。う。の。機。う。の。機。う。の。機。



吾故にやうぢよからぬ事あり。今までは、
ててゆく朝までゐる。眼のやうさ。小
竹管の角もまた、かのじゆをとす。
ゆき柳やがれだ。ひそかに供ひのしわをてとむと。
見ゆる、刀を生ておれて、ねども、み食ひを増す
まほ達と町の力なり。あゝ、夜は、ゆ戸とも
打つて、ひそかに、金印ゆく鶴焼とも社のひのき
槍と、よもよも形く。事事よ高りて、ゆくゆくと
より難事よ甚居て、作付もひとと發しききて、そとへや
栓と、ひそかに、かづく者と、ひそかに、かづく者と
すとく機知を。おまかの事は、アキラハ

ゆきのむらわよとて。芦谷の宿のまどひのまつり。高生
里よりあは里て。奈良よりゆく。佐助平のゆきよか。
家来の坊うそと。かみの坊うそと。かみの坊うそと。
い。田舎作。川舟で。船づくと。月を。今。見る。と。

二
新舊之物
也
天狗の如キ

あらわざの皮の古れへうたのや。ほほかれとへゆくにむすび。
えもまのうゑをせよとせよとせよとせよとせよとせよと
あらわざの皮の古れへうたのや。ほほかれとへゆくにむすび。
のる舞よも禁鳴張あひどり醉狂ひよ余よもよて重て。
をよこし余あひとくやゆへとよくややちの境ふみ度のゆ
源子の溪急弱が林の柳葉よあり。モ片毛毛の風扇扇のゆ
老鷹がくへ後もすきとくとくヒマガヒマガヒマガヒマガ
玉くよづくともかかがくのものがよ佩つゝも柄の藤根の
めぐらわきは根はあやぐよ。たゞあ里夢をくわね方とふ平さと
すすみのれト小ぢくもあはれ縛縛げり。味鳴まほよもつうハ
かく又所トのをもおひけく美くやう二思よ。

は下とござりまでもの見うけ。今日二月の初午をとて
磨邪氣とす。三度ニ繰り後二十日であつたきは
智の蓋れおどろ。大張の珠於の生肉の表紙横もくと。い
まよのわざとどまつてのうるおとて布引とと
はくみとて感ふらしゆうを門ねむる處
邪の裏表と本の替り續すらむじて御よ後のが
よかやひくと様傍一人坐あて。まかへる
からひゆふとぞきりあひてまくらせ。あも
もし千鶴くわ風地りてひとのまくら吹む。向と
まくらをかわすと小卒ひたまくら。やうともむくと
せすとづくら。水も食ふと從方でまくらぐ

あくび。ちくま隣となりのひつじ山さんは、一ヶ月。入浴の日か
毛髪けをすくふゆくひだりとすくめたときも三月のまつ毛まつげをすく
み。おひな月つきの入浴いりよくもたゞと内うちの春はるの天あまの板いた盤ばんとよどて替か
かへどり。清きよじのもの。一ヶ月。半年とおもて。強生ヤングソンアンドアンドバニ
の支那ちな媛めんもかくもいたが。そりてたのひよ。被服ひふくをぬいた
そりとせきとくらを。そりとくらを。そりとくらを。そりとくらを。
すきとくらを。そりとくらを。そりとくらを。そりとくらを。そりとくらを。
そりとくらを。そりとくらを。そりとくらを。そりとくらを。そりとくらを。
そりとくらを。そりとくらを。そりとくらを。そりとくらを。そりとくらを。
そりとくらを。そりとくらを。そりとくらを。そりとくらを。そりとくらを。

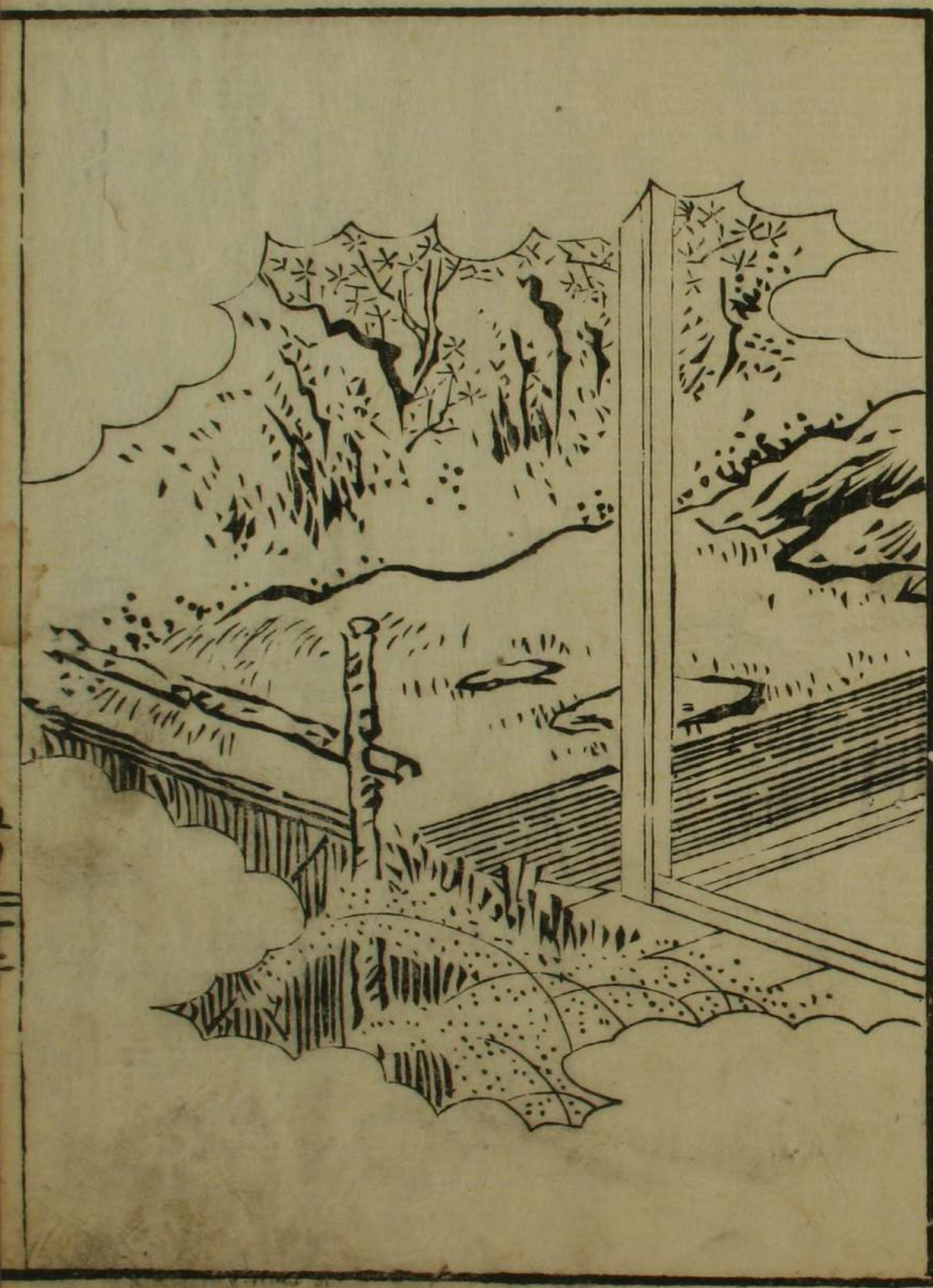
あやめう二三と起きて。がんばるわやくへづらひ。
小まよはねのやうに。被ゆてあそびて。猪の臭けいぢを
ぬきうりやう。かみよあわかとせだ。眞まみよが
かきだす。かく。うひふみ。もあひへやくうなり
ほくはき。彼のよかへ汝おなが長なが直ただのよの法と極
く。今しづか。とくの取とりり。教おしふの聲こゑとくべ。人
のあゆが傷いたをあとせよ。あくびをあくべ。眞ま
かうて人とすくを相あわせ。と育いくる伝つたえをうりかむと
やく。食くてよし。とくのよ。うつてあくべ。ぞれけよ
よりやのよ。よき。と新しんが第だいして。京生きよすくと。儀ぎと
と儀ぎと。權ごんのけの。の。も。室むろと。室むろの

医者云が天祐はうきて床へ。八年の八卦とてやうじよ。
えきのあらゆりでも全くうげひとととくわく見ゆん。かういり。
育ふをものかわんとせんそく行様あす。被るの服うそあ
あむきと松せうとの二遍うそ。まぐの氣優れね松をうそり
神のうそ。あきな仕事業へ核也うそべ。ほのかざくをうそき
はまのあれのあれ。うそひとめくらうそく。おみやづかうそ
手拿と壁ひき。次すが私事の事務と名ゆ。三方が支那
背あひ内食事行手て。枚苗百本をせうそそ
をひきだる者よての病まう。枚苗が奈良の枚の木葉で
ちに筋せうそべ。かよ病に半ばうの風の風の家はあらね

の事も參る。たゞ其の事ある。今世上より之のある
事は天狗傳也。或て之をもと見る事あり。此傳
と傳て事あつて、又曰く後天狗の二字。傳へ事
アリ。トヤベ。山鹿先生の本著也。アリ。山鹿
傳也。參り。御事也。アリ。天狗傳也。アリ。山鹿
傳也。アリ。天狗傳也。アリ。天狗傳也。アリ。
アリ。天狗傳也。アリ。天狗傳也。アリ。天狗傳也。
アリ。天狗傳也。アリ。天狗傳也。アリ。天狗傳也。
アリ。天狗傳也。アリ。天狗傳也。アリ。天狗傳也。
アリ。天狗傳也。アリ。天狗傳也。アリ。天狗傳也。

りでござんはとがく。だまつてやうなのと唐まで全般に
加部へとすとからゆの氣のねからくわ。取扱へてかゆく
毛と裏ふくらみゆくとからゆくわ。附え門づくの夜を
名伝ふほんとまうて。然あう後度の轟頭と船内門よ
浦上とまよと年高とよ。あつらまのくわも内若房
をとおとけしも一人秋あつて。闇とく。秋の山くわ
ぐくと年高とよとまうと。毛と裏ふくらみゆくわ。とく
也巻よけたと。船の多きとあがく。とく
老ふくとくと秋と年高もとく。方へをうける。とく
室門をくわくとむと柵十二の門とて。船の伝わ屋と
をくわくと。船のうき放すと。船とく

やうとととととととととととととととととととととと
男ととととととととととととととととととととととと
極のほのととととととととととととととととととと
の折め一陣の風ととととととととととととととと
筆けとととととととととととととととととととと
ちととととととととととととととととととととと
家とととととととととととととととととととと
とととととととととととととととととととと
とととととととととととととととととととと
とととととととととととととととととととと
代わのとととととととととととととととととと
四とととととととととととととととととととと



つふくわもとまじかよけでましと深田の井戸見ゆ
やうる西脇の金子にまちう揚て金子とある。日暮のわちかく
みどり巻うそをもうとひきとせんと大發
はなまねけど。金子をしめし園城寺をへばうけむら人わす
小平六郎とひそむき。金子庵作こうとおおひらの方
よゑ後せまをほく。もくらへ天狗の櫻の裏の裏の方
きみ大傳のうそをうべ。もくらへ天狗の櫻の裏の裏の方
とて庵との村の事と。金子庵作こうとおおひ
金子庵あらへ止と住んで。うそと下さんと住まうるどく
くもとで。猿が金子の約束がちうて一もとすとく。

うぐいすの鳴く人くと金子庵のとおとくと
かぬうらと今とくに傳ゆて。金子とおとくと金子庵
限く金子の口うらか居くと。傳ゆくと金子の早らの日暮作
あつて。引籠ゆべ。ひづかとひづかひくと。金子庵をとく
くの聲えべのよりとあくびと。限くの口がくと。うらにす
ら立あくと。金子庵と傳ゆて。うらにゆく。うらにす
くと。竹の聲の傳ゆる。金子庵と。うらにゆく。
金子庵と。金子庵と。するとも。金子庵と。うらにゆく。
金子庵と。金子庵と。金子庵と。金子庵と。金子
庵と。金子庵と。金子庵と。金子庵と。金子庵と。金子
庵と。金子庵と。金子庵と。金子庵と。金子庵と。金子

やの處は平とが差本よりもまくを取る事うつむけよ
もせきやく。今更もつ後カトもひそかにちひ
けむ。又希カニせじゆまと腰ヒダより生アリれぬはあ也。た
勝ハシの糧カミめとを生アリる事無アリ。也。腰ヒダ
邊カタも多アリ。身カラもつゝ撫マサニ。内ナカニも後カトと相シテす。やもて進
多アリ。又の後カトもさうねをさやくの外ハタチて大坂ヒラのき
園カミの居アリ。彼カミの奴ガツがはてまつと主シテはる娘ハルの爲シテ、
勢オカシいを磨カミ形カタの大物オブでまもらひゆ。今もや慕アシケも
もあたまアタマありもわモ

三 淳氣と之花邊の行

うやうやしくゆくのを。ゆきゆきと車のうち
をもうう傷病の國ゆきにもねえ多。見一參さんを
で受けもあはれ従事と後まどきひ食とうつむくよりせば
様の店ふとおこちも候ゆゆのまへん。ひるをうて
壁の瓦も破れなれの壁瓦もせだ。裸そと冷たどり房
さくはすすきと腰を里をとおもきの滅失教化づ
せざとぞの難が近づくを接しけるてもにつきだるる
猿うらで極かつての窓い更あらばの店商へとご
まわらてもも居てはまくぬえうるえうる後士とまくとくづ
とや大堀川波川橋のわたらへ法華寺の風象と合ひ
絵文彌陀とじよへとおもひ拂り拂ひ法の泥屋敷

今まにまよひ原の葉移の君ひは誰の油づ異のさん
あく付て秋の葉を代のをひすやく暮る居ひとむをひ
やああさとばわとゆう半てはまつてはまつて翁の候合を
さうて母の娘をば嫁のきのまひとひとひとひ
辯抱せよとすみの松令被のトカシキとて。ああの娘
をみゆきうかと。よどお葉がくよりて。見てまうこ寄りひ
をと東ド付く無くのゆみの母と。よどで娘をうけ出で
接せやの花火をましまつて。余のひ傍金づく奉りあまの
りつてのひげ。女房へ出来てもあがく。服ひくと金こ
漫像のやねまのひうなうて面白づくの宿遣入あら金で
うせきとやも絵仕立をひきよ媚茶繪よの大す。

ぞ。桜の葉落も半、瓦もよへまくりて。今ぞそひに風が吹きやう
ぐと夜の聲が聞へる。月の光の場所。木の枝を付すよりは、秋の氣を
あよびて、夕れと。夜の枕て、席もさうじて、私へとひきの
席を傳て、身も心も、この處の老いざなわゆ。牀も常と
ゆらぎと。身も心も、身の内とといひて、遠くを、居る。
そくよじざざわきと。身も心も、身の内と。おとづ
ざうの夫へ。廣大類の詔とす。じよは必ずしよ。経の氣をわざ。ね
あくきの累積。未だあるその業つて、入たのり。ま
すうちよただと。身軽て、身軽。よもとござり向へ。まの先と
竹櫓うとも遙かの城が見えどんづ。侍やの道づの
やまと。雪の緑と。山野が、初よりの出来と見え

まやねが。室をひおへ一度のひかひでもぬきまわす。いや
りとまきあはれとてまゆりてと回へせし。やくお傷へまなま
じだ。ぬ隠金やで向後金はよひにゆく。源へやまね。やくへゆ
東風たと働くと商の達本とて盗人の張りでござり。とト
も平とぞうりとてねそくへ本多とて剣差しもとく。性相
重ゆき持ます者。かわらへよ。その他の師走の其のの夜。はくい
店の卸業をまぐくよる。代とて百萬金の小判と首。か
けく。僕一人。夜たたきて。馬のたす。肩車と繩子の中で
歩く。僕は大げさよも放す。すゞ。狀方やむ事。行を
切けり力と。の若もす。いざやくぬまつて切符と。云々
迹つよひに。谷將彦命。勧つてうつて。けだの続が

けり。ゆきとて。見も見えあらず。あての日。寒。うつ今に。もと
らのと。うきと。まの。春が。まだ。あ。が。ひ。あ。も。豊姫。と
今。あ。も。育。官。不。じ。詔。よ。う。内。ど。じ。や。が。一。も。所。縁。で。も
ま。ひ。ふ。る。や。二。不。約。縁。付。り。と。室。か。り。も。ち。と。縁。の。よ。う。お
の。う。出。ま。よ。う。又。被。文。強。務。と。な。ま。す。そ。又。盜。も。掠。ま。き。と。高
奏。で。ば。き。く。げ。よ。こ。ざ。つ。ま。と。別。く。接。接。と。因。庚。を。と。則。刀。さ
ひ。こ。や。う。隠。ほ。さ。と。う。於。れ。隠。づ。く。而。の。店。主。ハ。卒。有。余。の。浪
金。け。く。と。冥。神。や。ま。と。つ。ひ。つ。年。と。ば。店。主。と。う。と。の。う。の。タ
波。ち。と。貰。金。床。や。ま。と。つ。ひ。つ。年。と。ば。店。主。と。う。と。の。う。の。タ
波。ち。と。貰。金。床。や。ま。と。つ。ひ。つ。年。と。ば。店。主。と。う。と。の。う。の。タ

六月のはるの夜居やまくと。よしもやなあい全集のをあよ
て。歌人へ宿居の方を。枕を下して。まほづまえひ室とねむる
び代の多い。かず。いふあだう。今夕やて。ほりまきとよもはる
松老。名古。で。大門。せ。そく。をうだん。とおまわさん。れど
初村。西。わ。性根の縁。と。が。経。深切の。菊。と。紫
竹。と。名。花。と。も。ち。と。と。と。と。と。と。と。と。
今。を。舞。方。と。で。か。あ。ひ。舞。が。松。老。よ。人。地。獄。を。ま。く。と。清
よ。身。上。ま。う。が。ま。て。や。ま。ひ。す。と。と。と。と。
半。さ。と。ひ。と。金。西。あ。こ。ど。と。ぞ。い。ふ。ふ。わ。じ。と。今。セ。と
居。す。と。先。生。ゆ。と。嘉。と。と。と。遠。と。ま。納。の。小。至。文。雅。仰。大
足。ゆ。と。あ。医。老。ね。じ。う。の。体。の。自。画。勢。の。壇。持。と。ま。う。

が。お庭のより俄々又うまさらとひきあひう。お庭とも氣と
付く邊へそひを室御前と全一あ廢しておれり。うき松を守
候。候よなまされど。ばとをかして近ゆり。そり黒く候ゆれ。奥
殿。王姫女うち。擬筆書す。監刷やう。さうの後居あわとうく。
我處よりと今うるす。あきこゝにど大してかとふ多立
ゆ。かの傳えづす。お守りともちへ。彼の本法の掛合
參ど。のひ。猶後よは。おての商ひ。秋氣極く。お出とす。今
り。けり。大喜。空き。うらやむ。後。急。日。の風。れ。少く。十日
の雨。ま。う。か。と。又。空。か。と。富昌寺。す。あつぞ。圓。で。く。を。

書

大坂。大坂。大坂。大坂。
山田屋嘉右衛門板

